

5 第3次推進計画における成果指標達成状況

	目指す成果	指標	実績		目標値 2023 年度	達成 状況
乳幼児期	家庭や保育所・幼稚園等で、読み聞かせを楽しんでいる	保育所（園）・幼稚園等に通う5歳児の家庭で、保護者による読み聞かせが週に1回以上行われている割合 〔鈴鹿市子ども読書活動に関するアンケート〕	54.1% (2015 年度)	63.4% (2022 年度)	70.0%	未達成
		市立図書館における6歳以下の人口一人当たりの年間貸出冊数	5.9冊 (2015 年度)	6.9冊 (2022 年度)	7.0冊	未達成
児童期	読書の楽しさを知り、読書週間が身についている	読書が好きな市内小学校児童の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	73.0% (2016 年度)	69.7% (2023 年度)	76.0%	未達成
		学校の授業時間以外に、普段1日当たり読書を「まったくしない」市内小学校児童の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	24.1% (2016 年度)	29.1% (2023 年度)	21.0% (※1)	未達成
青年期	目的や状況に応じて本を選択し、時間をつくって読書をしている	学校の授業時間以外に、普段1日当たり読書を「まったくしない」市内中学校生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	46.6% (2016 年度)	49.9% (2023 年度)	44.0% (※1)	未達成
		昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館や地域の図書館に「ほとんどまたはまったく行かない」市内中学校生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	70.7% (2016 年度)	— (※2)	68.0% (※3)	—
		市立図書館における13～18歳人口一人当たりの年間貸出冊数	1.86冊 (2015 年度)	1.7冊 (2022 年度)	2.2冊	未達成

※1 数値が小さい方が、読書率が高まっていることを表す目標

※2 全国学力・学習状況調査から調査項目が削除されたため、未記入

4 成果指標と成果目標

	目指す成果	指標	目標値	現状値
家庭	家庭において、子どもが読書に対する興味や関心が高まるよう支援している	保育所（園）・幼稚園等に通う5歳児の家庭で、保護者による読み聞かせが週に1回以上行われている割合 〔鈴鹿市子ども読書活動に関するアンケート ¹ 〕	70.0%	63.4% (2022年度)
		市立図書館における6歳以下の絵本の年間貸出冊数	6.8冊	5.8冊 (2022年度)
		読書が好きな市内小学校児童の割合 〔全国学力・学習状況調査 ² 〕	73.0%	69.7% (2023年度)
		読書が好きな市内中学校生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	68.0%	61.1% (2023年度)
地域	利用者の要望に応じた、読書活動の支援を行っている	市立図書館における0歳～18歳の図書貸出カード登録者の割合（※1）	45.8%	35.8% (2022年度)
学校等	読書の楽しさを知り、読書習慣が身についている	学校の授業時間以外に、普段1日当たり読書を「まったくしない」市内小学校児童の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	28.0% （※2）	29.1% (2023年度)
		学校の授業時間以外に、普段1日当たり読書を「まったくしない」市内中学校生徒の割合 〔全国学力・学習状況調査〕	48.0% （※2）	49.9% (2023年度)

※1 総合計画の成果指標から0歳～18歳該当分を抽出

※2 数値が小さい方が、読書率が高まっていることを表す目標

¹ 鈴鹿市子ども読書活動に関するアンケート：「第4次鈴鹿市子ども読書活動推進計画」を策定するに当たり、子どもたちの読書観や活動現状を把握し、計画策定に当たっての基礎資料とすることを目的として、鈴鹿市が実施したアンケート調査。

² 全国学力・学習状況調査：文部科学省が2007（平成19）年度から年に1回実施している学力に関する調査。対象は小学6年生と中学3年生、教科は国語と算数・数学（年度により、理科、英語が追加）からなる。また、学力を問う問題だけでなく、学校と児童生徒に対し、生活習慣や学習環境などのアンケート調査も実施。